

2024.1.24 第14回霊的講話 慰めに満ちた神①

生徒の皆さん、おはようございます。この二、三日はこの冬一番の寒さだそうです。皆さんの体調管理は大丈夫でしょうか？ 石川県、特に能登地方の被災者の皆さんは、この倉敷よりももっと厳しい寒さの中で、不自由で不安な避難生活を過ごしておられるのだと思うと、心が痛みます。多くの全壊した家屋や盛り上がり寸断された道路、隆起して海岸線が退行した漁港の様子を見ると、完全な復興にはかなり時間がかかることも理解できます。今月の「災害の時の祈り」も、さらに力と心を込めて祈っていきたいと思います。

さて、この三学期には四回の霊的講話が予定されています。この四回の霊的講話では「慰めに満ちた神」というテーマでお話をしたいと思います。

新約聖書のコリントの信徒への手紙二の1章には次のような言葉があります。聖書を開かなくてもよいので、耳を傾けてください。

「わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。」

このように、聖書が私たちに示している神様は、苦難の中にある人に慰めと励ましを与えて下さる「慰めに満ちた神」です。この「慰め」という言葉（名詞ですが）は、原文のギリシア語では「パラクレーシス」といい、「すぐそばに来てくれる」、「寄り添ってくれる」という意味があります。神様は、遠く空の上から私たちを見下ろしているだけの神ではなく、私たちのすぐ近くに来られ、私たちに寄り添い、慰め励ましてくださる神様なのです。

では、聖書を一箇所開いてみましょう。マタイによる福音書11章28節から30節、皆さんの新約聖書の21ページ、上の段です。これはイエス様が語られた言葉です。お読みします。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたし（この“わたし”とは主イエス様のことですね）のもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛（くびき）を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

ここでイエス様は「私のもとに来なさい」と呼びかけておられます。旧約聖書でも、新約聖書でも、聖書にはこのような言葉、「私のもとに来なさい」あるいは「帰ってきなさい」

「戻ってきなさい」という言葉がたくさんあります。つまり、聖書は「あなたは、本来、あなたがいるべきところに来なさい、戻ってきなさい」と言っているのです。これは聖書の様々な教えの基本を成している大切なメッセージです。

皆さんは、旧約聖書に記されている、最初の間人アダムとエバの話をお存知ですね。先月のクリスマス・タブローでも紹介されておりました。アダムとエバは神様の命令に背き、善悪を知る知識の実を食べ、神様のもとから離れてしまったという話です。多くの人は、この話を単なる神話あるいはおとぎ話とおっているかもしれません。しかし、この物語は人間に関する重要な真理を語っています。そして、クリスマス、つまり救い主イエス様の誕生にも大きな関係があります。

人間は神様によって、神様に似た人格的な存在として創られました。ですから、人間は善なるもの、美しいもの、永遠なるものを求め、そして愛し愛されることを求めます。それらの求める心は、本来、神様によって満たされるものです。しかし、人間は、その神様のもとを離れ、各々が自分自身の善悪の基準に従って生きることを選びました。そこから、人間同士の争いが生まれます。また、神様から離れた人間は、善なるものや美しいものを求めながらも心からは汚れたものや醜いものが出てくる、あるいは愛を求めながらも心からは憎しみや妬みが湧いてくるという相矛盾した存在になってしまったと聖書は語っています。だから聖書は常に「神様のもとに來なさい、帰ってきなさい」とおっているのです。

また、イエス様は「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに來なさい」とおわれています。皆さんは、「私は疲れた、しんどい、もう心が折れてしまった」と感じてしまうことはありませんか？ 私も結構、心も身体も疲れを覚えやすいですし、気も小さく心配症なので、心に重荷や負担を感じやすいタイプの間人です。生徒の皆さんは「校長先生なんて、授業もないし、テストの採点もないし、いつも暇で楽そうじゃん」とおっているかもしれません。でも、実は、校長というのは結構いろいろなことがあって、様々なプレッシャーもあり、ストレスが溜まることも多いのです。信じてくれますか？ でも、私は心に疲れや重荷を感じる度に、このイエス様の呼びかけにに応じて、神様そしてイエス様のものに行き、悩みや不安を神様に打ち明けて祈ることにしています。そうすると、忘れていた大切な聖書の言葉が思い出されたり、自分が本当に考え祈らなければならないポイントが分かたりします。そして心もリフレッシュされ、もう一度、元気を出して立ち上がることができます。

そして、イエス様は「わたしは柔和で謙遜な者だ」とおわれていますね。これが私であれば、とても自分自身について「私は柔和で謙遜だ」などとはおえません。私は、自分が感情的で怒りっぽく、時に偉そうなことを考えたり言ったりする、結構傲慢な人間であることを知っているからです。でも、イエス様は「わたしは柔和で謙遜です。だから、どのような人も優しく受け入れることができます」と仰ることができます。なぜなら、それが真実だからです。

また、このイエス様の言葉には「私の軛（くびき）を負い」とあります。この軛というのは、牛や馬を二頭一緒にして畑を耕したり馬車などを引かせたりする際に使う、木でできた棒状の道具です。例えば、牛二頭を使って畑を耕そうとしても、一頭が勝手に右に、もう一頭が左に行ってしまうと困りますね。そこで、この軛で二頭の牛を繋いで同じ方向に進むようにするわけです。イエス様の軛を負うとは、イエス様とともに、イエス様と同じ方向を向いて人生を歩むことを意味しています。

「そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」多くの人が、この心の安らぎを求めています。前にお話ししたとおり、この「安らぎ」は神様のもと、イエス様のもとにあるというのが、聖書のメッセージなのですね。

聖書が私たちに伝える神様は「慰めに満ちた神」です。最初にお話しした、震災の被害を受けられた方々に神様の慰めと励ましがあるように、そして、私たちにも、私たちの周囲の人々にも、必要な時に神様の慰めと励ましがあるように祈りたいと思います。

では、最後に、「主の祈り」をともに祈りましょう。